

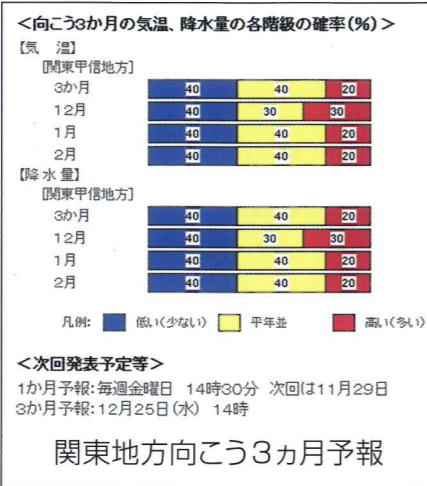
# モモの冬季管理を徹底しましょう

近年モモの苗木が植え付け後5年程度で突然枯れてしまう枯死症の様な症状が毎年発生しています。

モモの枯死樹の発生が多かった最近3年間の冬季の気象は、気温がマイナスなる日と暖かな日が周期的に続き、降雨が少なく乾燥しています。

今年の冬についてですが、11月25日気象庁地球環境・海洋部より発表された関東甲信地方3か月予報(12月から2月までの天候見通し)によると、この期間の気温は、「平年並」と「低い」の確率ともに40%で、降水量は、「平年並」と「少ない」確率ともに40%でした。

今年の冬の気温が低く、乾燥し、モモの樹が枯れる恐れのある気象となることが予想されているので、降雨の状況に応じて、厳寒期を迎える前から適量な灌水を行なうとともに、次の対策を行なって下さい。



敷ワラによる冬季の乾燥防止対策



若木の太枝剪除「ホソ切り」の活用

## 対策

- ・若木では、敷ワラなどにより冬季の乾燥防止対策を徹底する。
- ・枯込み防止のため、大きな切り口には必ず癒合剤を塗布する。
- ・枯死症対策として、冬季の強剪定は避ける。
- ・特に、若木の太枝の剪除は樹液流動後(2月下旬以降)にする(ホソ切りの活用)。

冬季は乾燥以外にも、雪害や凍害などの被害が予想されるので、気象情報に注意し、適切な管理を行なって下さい。  
なお、普及センターでも、必要に応じ、情報を発信しますので、被害防止の事前対策を行なうと共に、万が一被害があったとしても気持ちを切り替えて、事後対策を実施して下さい。

## 今年も成果がたくさん! 総合農業技術センター 成果発表会

山梨県総合農業技術センターでは、今年度も成果発表会を開催します。野菜・作物・花の栽培技術や品種紹介等、実用性の高い成果を多数発表予定です。

事前のお申し込みは不要で、どなたでも参加いただけますので、是非会場までお越し下さい。

日時:平成26年2月20日(木) 午後1時~  
場所:双葉ふれあい文化館(甲斐市下今井230)

※去年と開催場所が違いますのでご注意ください。

詳しくは→山梨県総合農業技術センター

TEL:(0551)28-2496 FAX:(0551)28-4909 まで

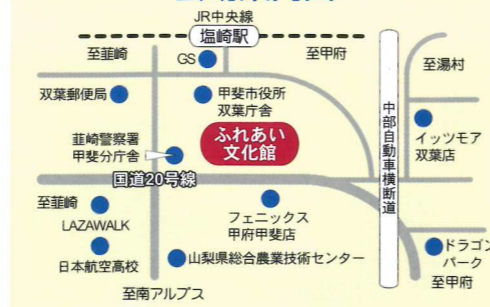
※果樹試験場の成果発表会は3月5日(水)午後1時30分~ 山梨市市民会館で行います。

※畜産試験場の成果発表会は3月11日(火) 午後1時30分~ 畜産試験場で行います。

※酪農試験場の成果発表会は2月下旬を予定しています。



### 会場案内図



# 山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集/発行 山梨県総合農業技術センター 住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105

Tel.0551-28-2496 Fax.0551-28-4909

URL:http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/

E-mail:sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.23

平成25年12月20日発行



## 総合技術普及センター

## 企業参入の推進に取り組んでいます

県では、農業の新たな担い手として、農業経営の法人化や企業の農業参入を推進しています。

総合技術普及センターでは、企業の農業参入にあたり、基本的な栽培技術や安定生産に向けた支援を行っています。

「芙蓉アグリファーム(株)」は、平成22年(2010年)に忍野村へ参入し、イチゴと



忍野村に誕生した「富士忍野ベリーランド」



観光イチゴ摘み取り園の内部の様子

ブルーベリーの観光農園「富士忍野ベリーランド」を経営しています。イチゴ観光農園のオープンは、平成23年(2011年)3月の東日本大震災の直後でしたが、富士山麓の寒さ厳しい地域で、初めての促成イチゴ栽培に試行錯誤しながら、栽培技術の向上に取り組み、この冬4作目を迎えました。

今シーズンは、世界文化遺産に登録された富士山を間近にみる立地条件から、国内外から昨年以上の入園者が訪れることと思います。より多くの観光客を迎えられるよう、育苗方法の改善と栽培ベットの増設を行い、品質向上と収量アップが見込まれており、富士山麓の新しい観光農業として発展が期待されています。



## 普及活動の第三者評価委員会が開催されました

平成24年度の取り組みを7人の外部委員が評価

県では、普及センターが、普及活動計画の樹立の段階から、活動の内容、成果に至るプロセスの取り組み状況を、外部有識者、マスコミ関係者、農業団体、農業者、消費者で構成する委員の皆さんに説明し、幅広い視点から評価を受け、その結果を今後の効率的・効果的な普及活動の推進に資することを目的に毎年第三者評価委員会を実施しています。



山梨市のブドウの簡易雨よけ施設で行われた現地調査の様子



7人の委員に普及活動を説明(果樹試験場会議室)



富士河口湖町の展示ほ場で行われた現地調査の様子

今年度の評価委員会は、9月19日に県果樹試験場及び現地で開催し、果樹技術普及センターが「果樹産地のブランド力の強化・簡易雨よけハウスの導入検討」、峡東地域普及センターが「就農定着支援制度を活用した新規就農者の定着支援」、富士・東部地域普及センターが「富士山麓地域の野菜産地の強化」の平成24年度の3つの普及活動の評価を受けました。

外部委員からは、「市町村との連携がどれくらい図られているのか見えにくい。」「新規就農者の就農率よりも定着率が大事である。」「首都圏近くにありながらもまだまだ山梨ブランドが十分知られているとは思えない。」「普及職員として資質向上の取り組みにも留意されたい。」等たくさんの大変貴重なご意見、ご提言を頂きました。

普及センターでは、評価報告書の内容を十分に踏まえ、普及活動の推進や運営に活かして参ります。

なお、この評価委員会の状況と評価結果は、県のホームページで公表しています。

## ～うんといいいあんぼ柿、GAPで支援～



GAP手法による衛生管理に配慮した乾燥行程



うんといいい山梨さんのあんぼ柿は心を込めて仕上げられています

J Aこま野はあんぼ柿の産地として知られており、平核無と大和百目を中心としたあんぼ柿が生産・出荷されています。

あんぼ柿は加工食品として流通されますので、生果と比較して生産工程における衛生管理は特に重要視されます。これまでも生産出荷基準の中で出荷に至るまでの注意点について周知徹底してきたところですが、本年産からは安全安心を確実なものとする中で、市場や消費者に対する信頼確保の重点化が改めて確認されました。そしてこの実現に向け、安全安心且つ質の高い「こま野ブランド」を提供するため、あんぼ柿出荷者によるGAP（農業生産工程管理）手法を用いた点検活動に取り組むこととなり、これらの取り組み開始に向けた検討や点検シートの作成などについて支援を行ってきました。さらに品質が高く大玉（4L級）の百目柿にあつては、「富士の国やまなし逸品農産物（うんといいい山梨さん）」として市場出荷を行い、あんぼ柿の産地から自信を持って「やまなしブランド」を発信していく態勢が整いました。



## 地域特産品を活用した6次産業化の取り組み支援

峡東地域では、NPO法人を中心とした農業者グループが、ぶどう棚で栽培したカボチャを「甲州天空かぼちゃ」と命名して特産化に取り組んでいます。徐々に栽培面積も増加し、県内の大型小売店等へ出荷していますが、外観・規格等により青果としては販売できないものが発生していました。

そこで、農業者グループでは、「美味しい甲斐開発プロジェクト」において小泉武夫先生から提案されたカボチャの甘酒開発に取り組み、峡東地域普及センターでは事業の活用を通じた加工品開発の支援を行いました。

今年度は、製菓向けなどより広い販路が見込める商品として、甘酒を濃縮した「ペースト」を新たに開発し、「美味しい甲斐開発プロジェクト」で高い評価を受けました。また、「ペースト」を用いた加工品としてアイスクリームの試作も行っています。普及センターでは、商品表示の指導や工業技術センターと連携した賞味期限の設定・成分分析の検討、マッチングフェア等でのPR支援を行いました。今後の課題はペーストの日持ち性の改善、

安定生産に向けた工程の確立、販路の確保などです。普及センターでは、引き続き6次産業化の活動がさらに発展するように支援を行っていきます。



開発したカボチャの甘酒



マッチングフェアで製品のPR



## 地域資源を活用した都市農村交流ツアーづくりに取り組んでいます



都市農村交流ツアーづくりの勉強会のひとコマ

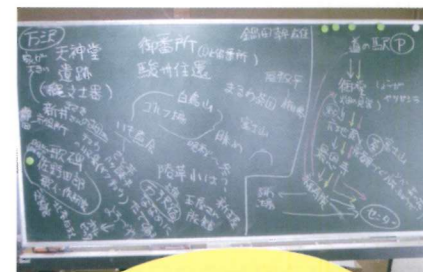
現在、本年度の新規事業であります「農村女性による農村資源活用事業」を活用して、地域資源を用いたツアーづくりの勉強会を行っています。

これまでにワインツーリズムや狩猟ツアーなど地域資源を活かした着地型ツアーを手がけている(株)タビゼンの須藤治憲氏を講師として迎え、若手女性農業者や生活研究グループ、NPO法人、他産業従事者等

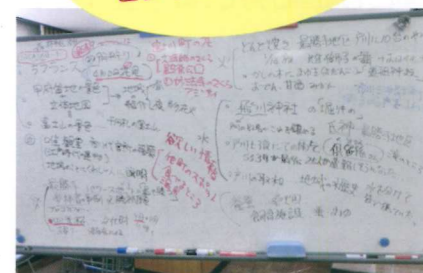
を参集し、計5回の勉強会を開催しました。

勉強会では、自分達で地域資源を活用した都市農村交流のツアーを企画しビジネスとして取組むことができるように、実際に地域資源の掘り起こしや行程案の作成、経費の積算等を行った結果、5つのツアーを作成することができました。今回作成したツアーについては来年度の実施に向け、より具体的な内容について詰めていくことになっています。

また、今年度については、今回作成したツアーのPRができるような内容のプレツアーを実施する予定です。



勉強会では  
ボードに都市農村交流の  
ヒントがぎっしり



## ニオイザクラの新品種“紅富士”の産地化に向けた取り組み



花色が濃く花持ちの良い  
ニオイザクラ「紅富士」



生産者を交えて販売検討会

富士北麓地域は、県内でも有数の花き産地で、中でもアッサムニオイザクラ生産量は、全国一位となっています。その生産者で組織する「アッサムニオイザクラ研究会（会員13名）」では、新品種育成など、先進地としての取組みを熱心に行っているものの、昨今の鉢花価格の低迷や燃油高騰による生産コストの増加などから、経営環境の悪化が顕在化しています。

そこで、この改善に向け、当普及センターでは、総合農業技術センターと連携し、これまで以上に高品質な品種の育成や産地PRの強化を支援してきました。

その結果、従来品種よりも花色が濃く、花持ちのよい“紅富士”の育成(品種登録出願中)を実現するとともに、この新品種に適した栽培技術の検討や有利販売に向けた市場展示会など各種イベントへの積極的な出展を支援し、多くの商談の成立や市場での高い評価を得ることができました。

当普及センターでは、引き続き“紅富士”の産地化・販売強化に向けた取組みを支援することとしています。



展示会で高い評価が得られました